香美市で活動する調査員約160名が、9月1日から8日の間に各地区で開催された調査員説明会に参加しました。

国勢調査の目的や調査対象などを確認し、正確な統計結果が得られるよう、2カ月間に渡る任命期間の調査スケジュールや、世帯への対応方法など、約2時間かけて説明を受けました。

また、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査活動中の健康管理やマスクを着用するなどの咳エチケットの徹底、調査票の配布・回収時に一定の距離を保つなど、これまでとは違った調査方法についても確認しました。

▲調査員は、『バインダー』『国勢調査員証』『腕章』『手提げ袋』を身に付けています。国勢調査を装ったかたり調査にはご注意ください。不審に思われた場合は、市までご連絡ください。
※国勢調査では、銀行口座の暗証番号やクレジットカードの番号などを聞くことはありません。

その４

国勢調査ってなんだ？ 国民に宣伝を

いよいよ第1回国勢調査が行われることになりましたが、この調査がどのようなものか、全国の国民にまでは浸透していませんでした。

そこで政府は様々な方法で全国民への宣伝をはじめます。テレビやラジオ、インターネットもない時代、新聞や雑誌といった活字媒体が宣伝の主のなかで、まずは、分かりやすい標語を募集しました。

『国勢調査は文明国の鏡』
『一家の為は一国の為になる』
といったストレートな標語から、
『一人の嘘は万人の実を殺す』
『申告は一に正直二に正確』
このように、国勢調査には正直に答えなさい、嘘や秘密はいけません、という諌め(いさ)の標語もありました。

また、
『ぬしはわがまま、わたしはきまま、国勢調査はありのまま』
といった、都々逸(どどいつ)や、
『産声に一人追加を急に書き』
といった、川柳などでも宣伝を行いました。

最後に、その当時に作られた小噺(こばなし)をひとつご紹介。
『お前はでかいズータイの癖に仕事は半人前だ』
『何言ってるんだ、お父つぁん、国勢調査じゃ一人前だよ』

国勢調査の時刻は
全國一齊

▲第１回国勢調査ポスター

私たちがお伺いしています！
国勢調査員
インタビュー

小原 正子 さん

前回の国勢調査から調査員をしています。

仕事をしていた時は夫婦共働きで、地域の皆さんにお世話になりっぱなしでしたので、退職後、調査員のお話をもらったときには、お役に立つのであれば、と引き受けさせていただきました。住宅地図を片手に、お会いするまで何度も足を運ぶこともありますが、調査時、特に初めてお会いする方には、信頼をいただくよう努め、コミュニケーションをとりながら調査を進めています。

平山 則雄 さん

調査員をする中で大変なことの一つは、お家の方となかなか会えない場合があることです。おられる頃を見計らって訪ねるようにしていますが、あまり遅い時間になると迷惑をかけてしまうので、そのあたりに注意しながら調査をしています。前回からは、インターネットでも回答できるようになりました。自分でやってみると意外と簡単にできたので、スマホの普及率も上がってきた今、まずはそちらでの回答を紹介するようにしています。

高瀬 雅士 さん

今回、はじめて調査員をすることになりました。お声がけいただいた時は、自分に務まるかなという心配もありましたが、『どんな人がいるだろう』という興味や『やって損はない、必ず何かの身になるはずだ』という気持ちで引き受けました。

自分は自営業ですが、休みの日や仕事の合間をぬってお宅を回っています。お勤めをされている方でも、調査員はできると思います。次回は、一緒に調査員をやってみませんか。

小松 美佐子 さん

私の担当している地区では高齢化が進んでおり、まず、調査について理解してもらうことに苦労しています。

また、自分で記入することができない方もいて、多くのお宅で、一緒に調査票に記入しています。

現在、地区の中では私が一番若いぐらいですが、次の調査時には体力的にも調査員をするのは難しいかなと思います。今後、高齢者ばかりの地区が増えてきます。そういった地区の調査員の確保は、今後の課題であると考えています。

その５

第1回調査員は名誉職

当時は『文字を解し、事理に通じ、名望ある者』という選考要件のもと、小学校教員、青年会幹事、町内会役員など約26万人が栄えある第1回調査員に任命されました。

現在の国勢調査員は総務大臣が任命する非常勤の国家公務員。前回の調査では約70万人が従事されました。国の未来を思って、協力いただいている調査員の皆さん、まことにありがとうございます！

▶第1回国勢調査の記章
調査員が左胸に付けて調査活動を行いました。

▶第1回調査員に贈られた記念章